

第 2 回松本市基幹博物館施設構想策定委員会 会議要旨

1 日 時

平成 28 年 10 月 12 日（水）午後 1 時 30 分～午後 5 時 00 分

2 場 所

松本市立博物館 2 階講堂

3 参加委員

赤羽勝委員、大宮康彦委員、金山喜昭委員、菊池健策委員、倉澤聡委員、香山壽夫委員、笹本正治委員、南雲多栄子委員、益山代利子委員（50 音順）（欠席委員：武者忠彦委員）

4 事務局

市長（公務のため冒頭のみ）、教育長、教育部長、博物館長、博物館事業担当課長、都市政策課長ほか

5 次第

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

(3) 委員長あいさつ

(4) 議題等

ア 前回会議集約と補足説明

イ テーマ 2 展示 討議（館内展示室見学含む）

ウ その他

(5) 閉会

6 会議事項（要旨）

（事務局側の回答要旨は、「→」の後に掲載、委員の発言を受け別の委員が回答したものについては「⇒」の後に掲載している。）

(1) 議題アについて

ア 旧合併地区の取扱いについての話が出ていなかったように思うが、その点についてどのような整理になっているのか。（委員）

→市内の中で検討している。

イ 旧合併地区のその検討は、調査を行い報告書を提出するなどの手続きをとっていくのか。基幹博物館と周辺地区とのかかわりの部分でもあるので回答していただきたい。（複数委員）

→調査・報告までは難しいが、教育委員会、博物館として望ましい形について一定の結論に

は持っていきたい。

ウ 博物館の機能の中では研究が重要な部分だと考えるが、今までどのような研究がおこなわれてきたのか。松本学として体系化され、地域の魅力の発見になるよう研究成果を挙げてもらいたい。(委員)

→全体的に大きなベクトルとしてまとまってはいない。個々の学芸員の積み上げをしている状態。

⇒基幹博物館として松本学を体系化して研究する、というよりは、基幹博物館が松本学を推進する場であるというのが基本計画の位置付けだと認識している。博物館の学芸員の研究テーマが松本学に直結するとは必ずしもならない。

(2) 議題イについて

ア 企画展示・特別展示について

- ・800㎡の面積は一部屋で確保した方が良いのではないかと。展示に応じた色々な区切り方があるので、どこでも区切られるシステムは建築にもある。(複数委員)
- ・東日本大震災においては、博物館の建物も無事ではあっても他の目的で使っていることもあり、被災文化財をどこに持っていくかが問題になった。いずれにしろ、災害時に無事であるための造りにする必要がある。(委員)
- ・災害時の資料救出は周辺地域も見ながら考える必要がある。(委員)
- ・災害対策は一般的な公共建築としても求められている部分。どの程度の強さを求めていくかは今後検討しなければならない。今の段階で災害対策として位置づけるのであれば、常備品の倉庫を造るといったぐらいが固定的に言えることではないか。(委員)
- ・調光もできるようにすること。(委員)

イ 市民ギャラリー展示について

- ・目的に、来たことが無い人をとあるので、いかに博物館の奥に誘い込むかを考えていただきたい。(委員)
- ・ギャラリーとして展示するよりも、体験学習できる場の方が大事ではないか。(委員)

ウ (仮称) 親子の博物縁について

- ・市民ギャラリーもそうだが、内容が重要だと思う。まちなかにできる、きっかけづくりにするのであれば、長時間いられるように配慮することも大切ではないか。(委員)
- ・設置について異論はないが、市民に使い続けてもらうためにも優秀な学芸員を確保していただきたい。(委員)
- ・楽しく体感してもらうことが大事なので、大きなスペースが必要ではないかと思う。(委員)

エ 博物館活動の展示について

(意見等なし)

オ 常設展示について

- ・常設展示なので本を書くわけではない。実際に何を置くのか、目玉は何かを示していただきたい。(委員)
- ・9つのテーマというのは多すぎるのではないかと。一般的にはせいぜい5つか7つではないか。パンフレットに9つのテーマが書いてあると想像すると、ぼやけてしまう。(複数委員)

- ・繰り返し市民に来てほしいと考えるのだから、いつも同じ展示ではだめ。更新性を考えるように。(委員)
- ・外の人の目線からも、何が見たいかを意識すべきではないか。何をもっているかではなくそうした目線も大切だと思う。(委員)
- ・空間としても広くなる中で、ランニングコストのことも視野に入れ、松本を凝縮した空間にしていきたい。(委員)
- ・ビジターセンター展示の取扱いがしっかりしていない。(委員)
- ・時系列でなくテーマでやるというのはわかりやすいが、「山」と言われると先入観を持ちやすい。どの程度を範疇にするのか、一目でわかるようにするといいい。(委員)
- ・基幹博物館として、ほかの分館への案内、まちなかへの誘導が必要であり重要。(委員)
- ・ビジターセンター展示もそうだが、頻繁な更新が大切。ただし頻繁に更新するのであれば、常設展示のテーマの部分も独立した部屋にすることも検討すれば、館全体を休館にすることがなくなる。展示のシナリオと展示の仕方を考えないとあとで大変になる。(委員)
- ・三ガク都のうちの「楽都」はテーマに必要ではないか。(委員)
- ・ビジターセンター展示については議論を深めたい。(委員)
- ・時代区分に寄らずに松本らしさをもった新しい博物館にしていく。(委員)

カ 全体に関わる意見等

- ・施設構想ではどのように決めて、どのように今後進めていくのか。(委員)
 - 施設構想は、基本設計を進めていく際の条件を整理している。この整理された条件を基に、基本設計に入っていくが、それを進める業者の選定については、金銭面の観点だけで判断しがちな一般競争入札ではなく、例えばプロポーザル方式などで決めていきたい。
- ・市民の意見をワークショップを開催して取り入れるべき。大型の事業なので、プロセスを大切にしていきたい。(委員)
 - ⇒ワークショップは必要だと思う。お配りした資料(別紙4参照)のように、地元でもまちづくりの観点の中から博物館のことを考えている。ワークショップも急ぎよ企画し、次回以降の委員会にも提案できればと考えている。
- ・市民ができあがった時に「関係ない」と思われてしまうものでは困る。特に若い世代の意見を吸い上げていただきたい。(委員)
- ・現代の状況は1年ごとに激変している。基本計画の見直し(基本計画改)という認識ではなく、構想として考えなければならない。振りだしから位置づけるべき。(委員)
- ・市民のための博物館なのか、観光客のための博物館なのか、そこのメリハリをつけて考えていただきたい。市民がいかない博物館には観光客もいかない。市民としても自ら学ぶ中で行くこともあれば、友人を連れて行きたくなる博物館にすることが大事。名刺として使われる博物館にするためにも、市民目線のワークショップは大事。一方で中の目線だけでつくってしまうと魅力のないものになりがちなので、外からの目を大切にすべき。(複数委員)
- ・現在は国の方針により振り回される地方ではなく、地方が主体的になることが大切。そのためにも博物館は重要な機関。自分たちのシンボルとしてつくっていかなければならない。(委員)